

募集要項

申請手続

公益財団法人オービック野田財団サイト内、エントリーフォームからプレントリーを行うこと。プレントリー完了後、下記の書類を申請期限までに事務局宛に送付すること。なお、申請書類は返却しない。

1. 助成金給付願書(個人)(指定書式)
2. 在学学校長等の推薦書(指定書式)
3. 指導教授、指導者または協会等からの推薦書(指定書式)
4. 成績証明書(発行できる最新のもの)
5. 住民票(家族全員でマイナンバー無し、3ヶ月以内のもの)
6. (一次選考合格者のみ)扶養者の所得証明書

申請期間と給付決定予定

◎申請期間 2021年11月1日～2022年1月31日(当日消印有効)
◎給付決定 2022年3月末日予定
なお、給付決定後、入学または進学ができなかった場合については、給付を取り消す。

選考と結果通知

1. 一次および二次選考は選考委員会で行い、最終選考は3月下旬の理事会にて決定する
2. 一次選考は書類審査を行い、可否については通過者のみ連絡する
3. 二次選考は面接を行う
4. 最終選考は二次選考結果をもとに理事会で行い、結果については全員に連絡する
5. 給付決定した場合は、4月時点の在籍証明書および財団指定の振込依頼書を事務局宛に送付すること
6. 給付後、毎月(5日締切にて)活動報告書兼使途報告書を提出すること

選考基準

1. 心身ともに健康である者
2. 学業に意欲があり、確実に修了できる見込みがあると認められる者
3. 特定のスポーツにおいて、特にすぐれた資質、能力があると認められる者
4. 経済的な支援を必要とする者
5. 定期的に連絡が行える者(月次報告提出および電話・メールにて連絡が取れること)

その他

1. 給付が決定した場合、当財団関連の印刷物・ホームページで氏名等を公表する場合がある
2. 在学校からの問い合わせには、選考内容以外について回答を行う。また当財団から在学校へ問い合わせを行うことがある
3. 申請書類上の個人情報については、当助成金対象者の選考以外に使われることはない
4. 助成対象者が学業を修了した後の進路に制約は設けない
5. 財団主体の助成対象者交流会を年1回程度開催する

願書記入・作成上の注意

1. 助成金給付願書(個人)は必ず本人が直筆にて記入すること(保護者または身元保証人欄を除く)
※諸事情により日本語での記入に問題がある場合には、事務局へ相談のこと
2. 願書および推薦書の両面印刷は不可
3. 給付時の金融機関口座は、必ず本人の口座を指定のこと(本人名義以外の口座への入金を行わない)

財団概要

◎設立.....2017年1月11日
◎公益法人認定.....2018年3月8日
◎主務官庁.....内閣府
◎代表者.....理事長 野田順弘
◎目的および事業
スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野において、経済的支援を行うことにより、わが国の発展に資することを目的とします。
この目的を達成するために次の事業を行います。

1. スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野において活動する学生及び団体に対する経済的支援
2. スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野における研究事業に対する経済的支援
3. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

お問い合わせ・願書送付先

公益財団法人
オービック野田財団 事務局
〒104-8328
東京都中央区京橋2-4-15 オービックビル内
TEL : 03-3548-0012
FAX : 03-3548-0013
(※電話受付時間: 平日10:30~17:00/土日祝日休み)
E-mail : zaidan@obic.co.jp
<http://obicnoda-zaidan.jp>

スマートフォンからのアクセスはこちら



2022年度

助成志望者募集要項 個人対象



公益財団法人
オービック野田財団
OBICnoda Foundation



Player's Voice

一流選手との出会いと成長する機会を得ることができました

唐松 星悦
2020年度受給

浅野中学でフットボールを始める。東京大学進学後は1年時から主力として活躍。4年時には主将を務めた。2018年U19日本代表、2020年日本代表。今春、オービックシーガルズに入団

学業とフットボールに集中するために何らかのサポートを得られないかと様々な制度を調べていた時に、オービック野田財団のスポーツ助成金の存在を知り応募しました。大学4年生になった頃、家庭の事情であまり両親に金銭的な負担をかけられない状況になりました。その後、助成金をいただいて学業とフットボールを両立させる中、私は、負傷治療のため通っていた病院で、ある一流選手と出会いました。一流の選手が身体のメンテナンスにどれだけ高い意識を持っているのかなど、今まで知らなかった一段階上のレベルをその選手から学ぶ機会を得ることができました。学業とフットボールの両立だけでなく、選手としての視野を広げること、そして自分が成長していくこと。オービック野田財団が、そのきっかけを与えてくれました。



Player's Voice

フットボールと勉学に集中する環境を作ることができました

青木 勇輝
2018~2021年度受給

関西学院大学4年。長浜南中学からフットボールを始める。追手門学院高では1年時からOLで出場。2年時より攻守兼任ラインとして活躍。関西学院大学でも1年時から主力として出場。今季は主将としてチームを率いている

私には妹と弟がいるため、大学に進学しても両親にあまり負担をかけたくないという思いがありました。一方で、実家から進学が決まった関西学院大学に通学するには片道3時間以上かかるため、大学の近くに一人暮らしをしなければなりません。食費や生活費、フットボールにかかる費用などは入学前に試算しましたが、実際には想定以上にかかりました。オービック野田財団の助成金は学費とフットボール用品や生活費にあてています。今考えると助成金がなければ今のように勉学とフットボールに集中できる環境は作れなかったと思います。また、助成金を受けることで、今の恵まれた環境は様々な方々の支援によって初めて実現できているのだと実感しています。その恩に報いるためにも4年連続学生日本一、そして将来は日本を代表する選手になりたいと思っています。



Player's Voice

助成金が時間的・精神的余裕を与えてくれました

シルツ 壮馬
2020年度・2021年度受給

京都大学4年。小学1年から高校3年までサッカーに取り組む。京都府の強豪、洛北高ではセンターバックとセンターフォワードとして活躍。京都大入学後、アメリカンフットボール部に入部。2年時からRBとして出場している

2年時に返済の必要がないオービック野田財団の給付型助成金の存在を知って応募しました。1年生の時は貸与型奨学金を利用していましたが、将来の返済義務があるため大きくは利用できず、フットボール選手としての活動費を捻出するためにはアルバイトをすることも検討しなければと思っていました。しかし、オービック野田財団の助成金を受けられたことで、勉学とフットボールに集中することができました。体作りに必要な食事や1年生の時は節約していましたが、助成金をいただいてからは必要な量のサプリメントや補食を摂れるようになりました。アルバイトをする必要がなくなったので、3年時までに必要な単位を取得し、4年生の今はフットボールに集中できています。オービック野田財団の助成金は、フットボールと勉学を両立する時間的な余裕と精神的な余裕を与えてくれました。



Player's Voice

レポート返信に添えられた応援メッセージが励みになっています

目黒 歩偉
2020年度・2021年度受給

早稲田大学2年。小学3年時から中学3年までフラッグフットボールに取り組む。佼成学園高校でフットボールを始めWRとして2年時から主力、3年時には主将を務めた

大学の学費は最終的に自分で払うと決めて進学しました。高校までフットボールに打ち込ませてくれた両親に負担をかけたくなかったのです。進学先を決める時にオービック野田財団の助成金の存在を知り応募しました。助成金は全額学費に当てています。私が在籍するスポーツ科学部は学費が他の学部よりも高額なので、助成を受けることができれば、違う進路を選択していたかもしれません。オービック野田財団助成金事務局には月に一度レポートを提出しています。事務局の方からの返信にはいつも応援メッセージが添えられています。その言葉にもっと頑張ろうとモチベーションを頂いています。誰にも負けない選手になって、将来、スポーツを通じて社会に貢献できる人間になることを目指して、フットボールと勉学の両方に全力で取り組んでいます。



Player's Voice

大好きなフットボールを通じて学び続けるチャンスを頂きました

永田 聖也
2021年度受給

名城大学1年。4歳から中学2年まで取り組んだ極真空手は初段。京都両洋高校では2年時に創部したアメリカンフットボール部に入部。OL/RB/LB/DLと様々なポジションを経験。名城大ではLBとして将来を嘱望されている

私の家は母子家庭のため、母に負担をかけたくありませんでした。しかし、大学でもフットボールを続けたいと強く思っていました。フットボールは自分の活躍を実感できる場面がいくつもあり、とても楽しかったからです。オービック野田財団の助成金のお陰で、自分が行きたいと思った名城大学に安心して進学することができました。将来は起業してスポーツに関連した事業をしたいと考え、現在、経営の勉強をしています。高校時代、勉強はあまり得意な方ではありませんでしたが、助成金をいただいていることがいい緊張感になっており、今は進んで勉強する習慣もつきました。フットボールを通じて学び続けるチャンスを与えてくれたオービック野田財団の皆さんに恩返しするためにも、まずは日本一のLBになり、将来は競技の発展に貢献できる人間になりたいと思っています。

募集要項

給付対象

日本国内の大学に在学し、スポーツを積極的に行う学生で、スポーツを通じて明るく豊かで活力に満ちた社会の実現に寄与し、他の範となることのできる者。

対象スポーツ種目

アメリカンフットボール

応募資格

給付期間(2022年4月1日~2023年3月31日)において、以下の該当項目を満たしていること。

1. 上記給付期間において大学生であること
2. 専攻するスポーツ種目において、自他ともに認められる力量を有していること
3. チームスポーツにおいては、大学または社会人等のチーム(部)に所属している競技者であること
4. 申請時に満25歳未満であること
5. 留年をしていないこと

給付金額

給付期間は給付取消に抵触しない限り大学卒業までとし、給付金額は次のとおりとする。年間72万円を前期と後期の2回に分けて給付する。(返済義務がない給付型)

◎前期分給付 36万円(5月末頃予定) ◎後期分給付 36万円(11月末頃予定)

上記応募資格を喪失した場合、また当財団の助成金の廃止要件に該当した場合、助成金の廃止および返還請求を行うことがある。